

2013年度学校教育評価

評価（達成度） A：十分 B：おおむねよい C：不十分

部署	重点目標（計画）	具体的方策（計画）	評価	成果と課題	改善策・向上策
SS大学進学コース	生徒一人一人の学力の伸長と希望進路の実現	3年生は、実態に即しつつ高い意識を持たせ、各々の第2志望までの現役合格をめざし、大進路委員会等を通じて担当教員が情報を共有し、きめ細かい指導に努める	C	セナ対策講座、特編授業、個人面接などで、受験意識を高め、学力向上もあつたが、センター試験でかなり苦戦	個々の生徒の学力、適性、個性に対応しつつも、基礎学力の定着を意図的に徹底させるべく学習指導をする。クラス教科会などを活用し、個々の生徒の細かい情報を共有していきたい
		1、2年生は豊富な授業（土曜授業、長期休業中特別授業）や、放課後の学習指導（寺子屋授業）を通じ、個々の学力を伸ばす	B	寺子屋授業は、予復習を積極的に進めたい生徒にとって貴重な時間となった。各担当が教材、進路資料を共有し、それを生徒の学習指導、進路指導に生かすことが出来た	放課後や長期休業中の学習指導においても、できるだけ多くの教員の協体制をもつて、更に充実したものにしたい
総合進学コース	学力の充実と社会適応力の育成	土曜授業のキャリア教育により、望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせ、自らが調査研究した内容の発表で、実践的な自己表現能力を磨く。自己の個性を理解し、主体的な進路選択の能力・態度を育てる教育を目指す	A	テーマ研究、文化祭での発表、東日本大震災被災地訪問など1学年の精力的な発案と活動により、例年以上に自己表現能力育成の成果を上げることが出来た。3年間で体系的な繋がりある力を育成していくが課題	コースの取組に対しては、生徒の学力向上や実学的な効果等を詳細に分析、有効と認められたものに関しては、単年度実施でなく継続的に、より発展的な方策を常に発想し、計画、実行に繋げていくべき
		系統別の授業の活用で、生徒の進路実現の推進力とする	B	実習等のカリキュラムの充実が不十分であった	保育、看護等、体験・実習型のカリキュラムを充実させることで、生徒の実学的な力の養成に結びつけていく
		2年次の小論文素材研究、3年次の国語表現、小論文模試などを活用し、AO・推薦入試に必要なスキルを身につける	A	各授業の特性を生かし、段階を踏みながら進路に結びつく実力を養成することが出来た	推薦入試に向け、早い段階からの意識付けで、より深く高度な実力を身につけられると思う。各教科の特性を生かしながら、幅広くきめ細やかなサポートで、更なる生徒の実力アップにつなげる
		部活動・生徒会活動など課外活動への積極的な取り組みを促し、現代の社会に適応できる「人間力」の育成に努める	A	部活動課外活動等が盛んに行われ、文化祭なども例年以上に充実した。さらに多くの生徒が、現状の自分を乗り越え、自らを成長させる活動に積極的に関わっていくことが重要	新入生や、現在積極的に課外活動に参加していない生徒にとって魅力的な活動を展開していく。教員が生徒に対し、積極的に課外活動への参加を促していく
美術工芸コース	希望進路の実現	個別面談を行い、目標実現のため、適切な支援を行う	A	専攻別に全生徒と面接し進路指導を実施	現在の3年生中心の進路指導の成果を2年生にも拡げる
		専門実習の更なる充実と共に、美大入試科目の充実を図る	A	個々の希望進路に応じた課題を準備し実施	生徒の受験校に応じ、模試への参加を促す
	生徒の心身の充実	アートセンター（美大予備校）及び進路情報会社との連携強化	A	数校の美大の実情や入試データを入手	生徒の志望校をより早く把握し相手校との情報交換を更に密に
		教員間の密接な連絡による適切な生徒相談を行う	A	コース会やその他の場面で情報交換を徹底した	3年生の進路上の悩みを汲み取るアット等新たに実施したい
	生徒作品の充実	美術・工芸を通じた生徒の向上意欲の増進	A	カリキュラムの充実を感じると共に一部改善も	レッスン指導を更に強化していく仕組みを考えたい
		過去の美大展を総括し、更なる作品の充実を図る	A	40周年の作品展が多くの人から過去最高の評価	より多くの人達に鑑賞してもらう為に更なる宣伝が必要
生徒募集活動の活性化	40周年記念展示を通して更なる意欲の向上を図る	A	例年通り、今年度も適切な鑑賞教育を行うことができた	夏休みの特別授業を使った美術館見学も定着してきたが、費用を徴収する方法を今後もう少し簡略化していきたい	
スポーツサイエンスコース	競技力・実績の向上	学校ホームページの積極的活用	B	次年度は頻りにコース情報をアップしていきたい	進学実績に力を入れた宣伝に加え、その他の魅力もアピール
		各競技ごとに目標設定をし個々の技術力とチーム力を向上させ達成する。	A	柔道部・空手道部がインターハイと選手権大会に出場した。他の競技の全国大会出場が今後の課題である	コースとしてトレーニング器具を購入、カリキュラムにトレーニングの授業を入れた。
	学力向上と人間形成	高校生として学力向上に努めるコミュニケーション能力・基本的生活習慣の向上に努める	C	家庭反省者が多数出てしまった。3年生の引退後の生活の乱れが目立った。成績不振者が多かった	スポーツサイエンスの生徒に対し定期的に集会を行い、基本的生活習慣の向上に努める。部員のテスト結果を把握し、成績不振者に対して、個別に指導する
希望進路の実現	競技力向上と学力向上の両立、生徒に合わせた進路を考え、担任進路指導と連携をとりサポート。進路開拓を積極的に進行	A	希望進路の実現は達成できた	生徒と希望進路につき十分に話。生徒に適した進路情報の提供	
食物科	卒業作品展の成功	実習講師との連携を深め生徒の技術向上を図る	A	事前から実習講師に指導してもらい生徒の技術向上が図れた	工程表をさらに活用できるように指導する。
		日常の様々な授業の中で作品展の事を取り入れ生徒の意識を高めていく	A	土曜講座を通してメニュー指導した成果が現れジャンルの偏りが是正	メニュー決めを継続指導
	校外実習の充実	農場体験や各種テーブルマナーの実施	A	計画通り実施できた	次年度も計画通り実施したい
		生活産業基礎での職場見学の実施	A	交通手段の確保が課題である	見学場所の確保を早い時期に
プロ意識の育成	外部講師、OB・OG講演会・高校生レストランの実施	A	食品や食材の安全性に関し生徒の知識、意識向上が図れた	次年度もさらに内容を深め、生徒の学習到達度の向上を図りたい	
1学年	主体的な学習への取り組みと思いやりのもった行動への実現	基本的な生活習慣を確立させる	A	高校生としての習慣の確立ができた	
		他者への思いやりの意識をもたせる	A	新しい仲間との共同生活が順調にスタートできた	
		将来の進路について意識させる	A	科・コース別またホームルームにて意識付けできた	
		日々の学習・清掃等、主体的に努力できる生徒の育成	A	自己評価する習慣付けが確立できた	
		読書を通して、見識のある心の豊かな生徒を育てる	A	読書ノートを作成した	
2学年	生徒が健全な学校生活を送れるよう支援	性に関する知識を深め、健全な生徒の育成に努める	A	計画通り進めることができた	
		日々の学習に対する意識の向上	A	一部一部の生徒が意欲に欠ける	関係教員と連携を密にしている
	進路学習への支援	他者へのおもひやりの意識を強める	A	おおむね目標を達成できたが、まだ自分勝手な言動をする生徒も見られた。	根気強く指導を重ねる
		将来の進路を確定させる	A	計画通りできた。	3年卒業時に満足できるように
平和学習の充実	松大大本営跡地の見学、講演、映画を通じ沖縄研修の意義と沖縄の過去現在未来を学び、恒久平和を考えさせる	A	集会等も計画通り実施、生徒の感想を見て中平和学習が定着した		
旅行委員会の設置「沖縄通信」の発行「沖縄研究大賞」の実施、生徒が主体的に考え活動する場を設ける	A	沖縄通信掲載を兼ね良い物できた。沖縄研究大賞も全員の提出、内容良い			
3学年	生徒一人一人が希望する進路を実現し、全員が無事に卒業できるように、適切に指導する	進学先、就職先を見学・検討などし、自分に適した進路先を早い時期に見つけ、十分な準備ができるようサポートする	B	推薦入試を受験する生徒の学力面、生活面において不安があった。	担任との面接に加え、模擬試験を受験させるなどして生徒の実力を把握し、特に指定校推薦の場合は学年会にて厳密に選考する。また、小論文、生活習慣等の指導をより強化する。
		進学後、就職後、あるいは社会に出た後も通用するような学力、また社会常識やマナー、責任感を身に付けさせる	B	学力不足により、就職希望の生徒が不合格になるケースが目立った。	推薦入試を目指す生徒にも、評定値ばかりでなく学力向上のための努力を促す。公務員対策講座などを設ける。
		進路決定後、あるいは部活動引退後も基本的生活習慣が崩れたりしないようにさせる	C	部活動引退後の生徒に、気の緩みや生活態度の乱れがあった	顧問、担任、学年会が連絡を密にしつつ、引退後も部活動に参加させて面倒を見るなど、卒業まで生徒一人一人をサポートする。
		仮進級生の確実な単位取得のため担任教科担任の連絡を密に	A	担任が細やかに生徒に連絡を取り、何とか単位取得。	担任と教科担任の連絡をより密にし早め早めの指導を心がける。
教務部	他部署との連携を図る	文書・選択表等を確実に集める	B	間に合ってはいるが、提出が遅い	朝会等を利用して、呼びかける。担当を決め、まとめてもらう
		授業変更・自習監督の円滑化	A	授業変更の連絡は早めに提出されている。自習課題の2日前提出はなかなかできないが、授業には間に合っている	出張等の連絡・自習課題の提出は2日前までに
	新課程カリキュラムの完成	学科コース主任会との連携	B	主任会と連携はできたが、教科書決定に間に合わなかった	検討の時期を早め、教科書決定までには決定したい
		教育課程検討委員会（教科）との連携	A	各教科との連携については教科ごと個別に行なった	
	成績PC処理の継続	入力のPC処理を教科担当が行う・各学年担当が成績処理	A	教科担当は締切に間に合うよう入力してもらい、成績処理はきちんと行なえた。教科担当担任間の連絡に不備な面あり	教科担当と担任との連絡を密にする
	憲法人権平和教育	最近の時勢にかんがみ、憲法の成り立ちと要点、戦後の日米関係などについて講演を聞く（「信毎」主筆の中馬さん）	A	事前学習の効果はあり、生徒は全体的にメモを取りながらよく聞いた。講演要旨を「校友」に載せることができた。	憲法については3年に1回くらいは取り上げていきたい。
	行事企画の円滑な運営	2ヶ月前連絡の徹底	A	教務主管行事はすべて予定どおり中学校に連絡できた	校内の行事の連絡は1ヶ月前に確実に
適正な定員確保のための入試	ミスなくす	A	球技大会の日程変更以外は、予定どおり行なえた	行事予定表のチェックをしっかりと行なう	
進路指導部	適正な自己認識と進路選択	スポーツ推薦の厳格化	B	監督推薦の20以下が目立った	全て20以上に、その後のレベルアップも考える
		入試基準値の適正化	A	総合の推薦・A方式で+1、SSの基準の変更。	食物科の基準の検討、入試のやり方の変更。
	希望進路の実現	必要かつ有効な進路情報の提供	A	担任・クラス進路係を通し多くの情報を提供できた	クラス進路係の活用で、各クラスのボツが山積みにならないようにする
		ガイダンス・カウンセリング（個別面談）による支援	A	外部講師の指導により後の面接指導にも非常に有効だった	ランクが上の学校に来てもらえるよう働きかけたい(イッパ)
	社会人として必要な資質の育成	自己理解のための適性検査・諸検査の実施	B	事後指導が徹底できるとなおよ	積極的に検査を利用してもらうよう働きかけたい
		講演会や説明会、調査や見学・体験などの機会の設置	B	学校見学、インターシップの活用はよい、コースで温度差あり	個人だけでなくコース企画などで行く必要もあり
就職未決定者〇の実現	就職未決定者〇の実現	A	就職は未決定者〇を実現できた	早め早めの進路意識をHR・集会等で持たせるよう働きかける	
模試等を通じて基礎学力・一般教養を定着させる	C	推薦一般般め本番で実力が発揮できる、さらなる努力が必要	早め早めの動きははじめができるよう今後も努力していきたい		
生活指導部と連携し基本的生活習慣を身につけさせる	B	基礎学力定着は平日頃から心掛ける必要あり	ドリル実施など日常でコツコツと積み重ねていく必要がある		
面接指導を通じてのマナーの定着	B	日常の中から社会人として必要な要素となることを進路指導から見た形で指導した	キャリア教育の一環としても重要なので普段から生徒とのやり取りで大事にしたい		
面接指導を通じてのマナーの定着	B	面接ガイダンス（2年3月、3年8月）の活用により非常にやり易かった	間際に始めるのではなく早い段階で動き始める		
環境衛生部	生徒・職員の仕事の健康問題の早期発見・早期治療	健康診断で指摘を受けた者に対する早期の受診勧告	B	受診率横ばい	年4回の勧告を徹底
		担任と協力して生徒の欠席状況・心身の健康状況を把握する	A	欠席状況把握制度を確立	3日目対応の強化
	日々の保健指導・健康相談活動の充実	健康相談の特性と保健室の機能を生かし、様々な訴えをしっかりと受け止める	A	相談室と連携できた	担任・特別支援との連携強化
		生徒の様子を紙面で担任に毎日報告、必要に応じ学年とも連携し迅速的確に対応	B	もう少し迅速的確に対応すべき事例あり	学年・特別支援との連携強化
	防災対策・防災教育の充実	避難訓練等の実施を通して生徒の防災意識の向上	A	様々な工夫により向上はした	今年やったことを基礎としてさらに向上
		様々な災害に対応できる環境整備	B	防火防災マニュアル未整備	安全管理委員会との連携
学習環境の整備	教師生徒による全校清掃の徹底	A	全校による清掃はできている	無言清掃の実施	
	校内巡視（清掃委員会）による、校内美化の注意喚起	B	クラス点検などが少なかった	定期的に巡視を行う	

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	評価	成果と課題	改善策・向上策
生活指導部	学校目標に則った生徒の育成	いじめや差別がない学校作り、ならびに早期発見と早期解決	A	早期の対処で解消できた	
		悩みを抱えている生徒への配慮、ならびに相談体制の充実	A	発達支援coとの連携が奏功している	
	生徒の基本的な生活習慣の定着	身なりに関する指導の徹底	A	ポイント指導を通して校風の定着に貢献していると思う	
		授業への取組み姿勢に関する指導の徹底	B	一部に効果的であった	横一線の指導をするための検討
	現代的で喫緊の課題に対する予防指導の充実	男女交際に関する教育ならびに性教育の充実	A	1年生・保護者に警戒心を持ってもらえた	より深い性教育の必要性 1年間かけて研究
		情報通信端末類ならびにネットやブログの使い方に関する指導の充実	B	1年生・保護者に警戒心を持ってもらえた	社会の変化に追いつく研究
	問題行動に対する適切な指導と迅速な対応	学年会との連携による有機的な指導の検討	A	学年会との連携で有機的に指導を行えた	
		懸念や指摘(被害や苦情)に対する迅速な対応と周知徹底	A	性被害の減少には貢献していると思う	周知徹底に力を入れていきたい
	盗難防止、ならびに交通安全と交通マナーの徹底	校内での盗難の抑止	B	物理的抑止のみでなく心理的な抑止の方法について検討	
		自転車による事故の防止、ならびに公共交通機関を利用する際のマナーアップ	B	積極的な立ち立ち指導	
生徒会指導部	生徒会活動の充実	生徒だけでなく教職員の意識の向上も働きかける	B	生徒や教員の意識をさらに向上させることができる	様々な手段での働きかけを充実させる
		日常生活における活動や取り組みを数多くするように提案等していく	B	例年通りの活動に終始してしまった 新たな取り組みを考える必要がある	他部署との情報交換、教員と生徒との情報交換を充実させる
	文化祭の成功	生徒の自主性や主体性が発揮されるような文化祭になるよう助言をし、生徒たちが達成感を得られるような文化祭にする	B	助言などはできたが、生徒の達成感を大きくする工夫がまだまだできる	学校全体で生徒をサポートするような体制を強化する 生徒が積極的に参加できるようなアプローチを考える
	震災関連活動の充実	東日本大震災に関する活動・実践を行う	C	積極的な取り組みができなかった	生徒と連携を取りながら具体的な活動を行う
渉外部	課外活動の充実	充実した課外活動になるよう、様々な面におけるサポート体制を構築し、さらに発展させる	B	積極的に活動ができた	さらに生活面の向上を行う
	教職員、会員相互の連携を図り、より良い活動を展開する	①学級・学年PTA活動の充実②地区PTA活動の充実③委員会活動の推進④研修機会の充実	B	例年と同じように活発なPTA活動を展開できた。役員会の出席者を多くすること。地区PTA活動を充実させること。	教職員の協力体制を図る。
	私立助成中地区私学助成推進協議会組織の活動を展開	陳情活動の充実。ならびに助成水準の現状維持を図る	A	全地区現状維持の目標達成。	今年度本校単独の担当地区は、木曾6町村・筑北村・原村であったが来年度も同様にいいのか検討が必要
図書視聴覚部	図書利用の活性化。	カード化を進める。利用しやすい図書館内の環境整備。広報活動の充実。委員会活動の活性化	B	個人カードについては、運用が定着してきている。広報活動については、さらに充実させたい。	図書委員会の活動の活性化
	名著・名作を中心とした図書を選定。	名著、名作、岩波新書などの図書を積極的に購入する。	B	先生方の協力を得て有効な図書の購入を心がけた。生徒用の読み物を含め良い図書の選定が必要。	他校の様子を把握するなど多くの情報を入手して購入する。
	視聴覚教材の授業への活用	視聴覚教材を活用して生徒の理解をより深められるように、視聴覚教材の充実と利用を促進する	B	平和学習など教材の利用が広がった	授業等で視聴覚教材の利用を働き掛ける必要がある。
生徒募集	学校の教育方針に見合った定員の確保	本校の様子を中学の先生・生徒・保護者に理解してもらう。中学校訪問や進路講話を行い、本校を志望する良い生徒を確保	A	25中学で進路講話を行い、本校の理解を深めてもらった。中学校を回ることで入試の結果についての理解を確認した。	より多くの中学での進路講話をお願いする。保護者への働きかけを強めたい
安全管理委員会	学校安全の推進	生徒の生活安全、交通安全、災害安全等、地域社会・家庭との連携を図り強化していく一斉メール等も活用する	A	入試の地震対応マニュアルの作成、個人情報管理についての検討、地震の初期対応マニュアルの検討作成、登下校時の安全対策	文章化して、職員全体で確実に把握、職員全体への訓練の実施 緊急一斉メールへの参加の啓蒙・災害等緊急連絡の啓蒙
学校振興委員会	学年一斉授業の計画立案	12学年の学年集会形式の授業計画を立て、学年会・多分掌(進路指導・生活指導・教務)との連携で開講を目指す	C	会議が開けず、議論が深まらなかった。	時間割の中に入れてもらい、実効性のある提案をしたい
部活動後援会	部活動への効率的な助成	各部の実績や部員数を勘案し、補助金を適正に配分する	B	実績をどうとらえるか、しこりが残った。配分は全部行った	実績をどう支援していくか、配分率の変更、校務分掌の見直し
	部活動を通しての生活指導の徹底	帰宅時間や部室管理等の意識統一を徹底する	B	課外活動の分掌との強い連携が必須。主体的には動けなかった	課外活動係りとの協力が大変重要、合同会議の実施
	競技力向上のための指導法の研究	各種研修会への参加促進、並びに校内研究会の開催	B	各種研修会には参加が促進された。	校内研修の実施を前向きに検討
校務分掌委員会	次年度校務分掌・決め方内容の検討	職員が互いに前向きに仕事ができるように、最善の策を講じる	B	生活指導部長で校長一任となってしまった。部活顧問で紛糾	後継者の育成を考えた校務分掌の作成
教育課程委員会	教員のコマ・選択状況などの把握	教員のコマ・選択状況などの把握が確実にできるようにする	B	教務・時間割係りとの協力で教科間の調整を図った	選択については学年・学科・コースで検討し集約する
特別支援教育委員会	新教育課程の作成	生徒の進路実現に向け、より普遍的なカリキュラムを作成	B	学科コース主任会での検討で決定、次年度の加算の決定	早期に学科コース主導で決定。その後教科間調整の役割を強める
	発達障害・不登校傾向など支援を要する生徒に対し、職員間の情報共有授業参加への働きかけの立案実践	職員会他での情報共有 職員研修の実施 アンケートほかの活用	B C	委員会を定例にし、各学年の気になる生徒について、情報収集し支援生徒の経過報告も密にする全職員で支援する体制へ 外部講師を招いての研修実施 検査結果の活用は十分実施	校内研修の充実 QIUを実施しクラス状況を把握
		定期考査時等の相談室の活用	A	相談室の確保・職員の常駐	常駐職員(SC)の確保
	学習者総合的の進め、思考力をのばし言語感覚をみがきき情を豊かにし言語文化に対する関心を深める	漢字検定全校受検 小論文模試などを活用し、入試に必要なスキルを身につける テキストの音読、読解などを通じ、読む力、書く力、話す力を総合的に学習	A B A	全3回実施(2回は有志)2級合格率向上 模試の回数が少なかった(3年) 福祉文化賞イノベーション最優秀賞受賞(3年)・読書体験記コンクール優良賞(1)入選(2)	小論文模試の活用・国語科だけでなく全教員での小論文指導
地歴公民科	教科指導の充実	授業内の指導を最重要とし、生徒に興味・関心を持たせるような指導の向上を図っていく 各科目の教育目標を達成できるように、すべての生徒へのきめ細やかな教科指導を意識する	B B	教科アンケートを活用しながら、各科・コースに応じた指導力の向上に努めた	生徒第一を主眼に置いた指導向上に努める 生徒一人一人に浸透する指導の研究に努める
		種々の入試に対応できるように、個々に応じた指導	A	個別指導の徹底もあり、入試での得点力が向上した	生徒の要望に応えられるような指導を継続する
	カリキュラムの検討	各科・コースのニーズに応じたカリキュラムを検討していく	B	来年度より総合進学コースで地理Aを導入することを決定した	生徒のニーズに合わせたカリキュラムの研究を進めていく
数学科	総合的に学習し、論理的思考能力をつけ物事を順序立てた計画的に行動できるように。	数学検定を実施	B	準2級9名,3級2名受験,準2級1名合格,6名1次合格	新問題集を購入,合格率を上げ,受験者増やす
		小テストや定期テスト、各種模試を通じ理解度を確認	B	総合・SSで模試実施学力の向上を図った	次年度はさらに充実させていきたい
外国語科	学力の定着と理系進学者への対応	実験や教材等を効果的に活用し科学的基礎力の定着を図る。理系進学者には科学的思考力の向上を意識した授業展開	B	理系進学者の学力向上が今後の課題	授業内容の充実だけでなく生徒の自学自習への意識を高めて、演習量を増やす必要がある
	基礎学力の充実	毎朝の単語テスト実施による単語力の増強 生徒の学力レベルに合った習熟度別講座の展開 長期休暇の課題提示とアフターフォロー ALTとの連携により、生徒の表現力を補強	B A A A	毎日英単語に触れることとノート提出の習慣付けを図れた 習熟度別講座で無理のない授業進行を図ることができた 定期テスト実施を見据え事前の課題提示ができた ネイティブ教師に英作文の添削を受ける貴重な機会をもた	英単語と音声の関連付けをより図る。 講座間の情報交換の機会を増やし、生徒の学力情報を共有する 提出物を必ず提出するように指導し、長期休暇の学習促進を図る ALTがより活きる授業展開を考え、生徒の4技能向上を目指す
	進路実現のサポート	センター・二次試験・私大入試に向けた問題演習と個人指導 サテライト教材の活用 英検の受験促進および二次試験面接指導	B A A	入試に向けた問題演習の機会を多く持たせることができた サテライト教材への関心が高く、積極的な参加が見られた 受験希望者が増え、英検準会場として校内で複数回開催することができた	一人ひとりの志望や学力に応じたきめ細かい個別指導をしていく 入試を見据えて、サテライト教材を厳選し、効果的な活用を図る 早めに英検実施の告知の機会をして生徒の受験を促進し、継続的に準会場実施ができるようにする
	美術科	それぞれの分野において基礎力を身に付ける 美術を通して生徒一人一人の成長を目指す。 幅広い視野を持ち、自己表現力を身に付ける	A A A	基礎力を身に付けさせることができた 実習により集中力・持続力を育成することができた 実習を通して生徒の力を引き出すことができた	より高いレベルを目指したい
家庭科	身の回りの衣食住の問題に対処する力の養成	いわゆる衣食住の知識・技術にとどまらず、現代の生活はどうなっているか、今後はどうなっていくべきかという観点で養成したい。	B	扱った分野については生徒の今後の生活に最低限の役割を果たせた。「食」については生徒の受けとめ方が良かった	分野が多岐にわたるため、もう少し時間配分を考えながら多くの分野を扱うように工夫したい
情報科	①情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させる	情報化の進展が社会に及ぼす影響や個人の責任などの面から情報社会の特性や在り方を考えさせ、情報通信ネットワーク上のルールやマナー、情報の安全性などに関する基礎的な知識や技能を習得させる。(情報モラル)	B	著作権等身近な問題の理解が得られた。LINE等SNSの更なる理解が必要	LINEは、大きな事件が発生しているため、具体例を示し理解させる。携帯端末のあり方について
	②情報通信ネットワークの適切な活用で情報を収集処理表現	情報とメディアの特徴、情報のデジタル化の仕組み、情報手段の基本的な仕組みなどについて理解させる。(文章処理、表計算、プログラミング)	B	文書処理、表計算の基本はいいが、一人一台の時代の技術習得が必要	基本的な技術を習得するため、文字打の技術を習得させる
	③コミュニケーションを行う能力を養う	Ji-Cyber手段の発達と関連付け理解させる。情報通信ネットワークの特性と情報の発信時に配慮すべき事項を理解させる。(Cyber-Cyber)	B	コミュニケーション能力をつけ、人前で話す力をつけた。相手に分かり易く話す力が必要	いきなり全員の前でなく、グループの中で発表をさせ、より相手の理解が得られるプレゼンに
保健体育科	体力向上・コミュニケーション能力育成のために・・・	スポーツテスト実施による体力把握 ハレー・バスケットボールによる集団スポーツでの体力コミュニケーション能力の育成	B A	多少の施設上の問題点がある 年間計画通り充実して行えた	確実にスポーツテストを行い、生徒の体力の把握に努めたい 同様の計画で実施したい
		柔道では「心・技・体」の重要性・認識の育成。 「心と身体のバランス」の重要性についての育成	A A	年間計画通り充実して行えた 保健の分野からも、生徒の心の問題について理解してもらうことができた	同様の計画で実施したい
	心と身体の育成のために・・・	青春期の「性」に対する考え方の育成 現代の「少子高齢化」・「社会保険」等の諸問題の育成	A A	生活指導の性教育と連動して、保健の授業でも取り上げることができた 現代社会とも連携して保健の授業でも重要点として授業できた	もっと教科間の連携を